

Oxbridge 研修で自分を見つめ直す

松 井 皇

●今の自分を変える（モチベーションを高める）

Oxbridge 研修のことを知ったのは、中学3年のときだ。そのときはただ漠然とした海外へのあこがれであった。入学直後にあった報告会で先輩の話の聞いたり、そのときにもらった報告書を読んだりすることで、この研修がどのようなものなのか具体的に知ることができた。そこには、先輩達一人一人のこの研修に対する思いや考えがあり、とても充実したものに感じ、ますます研修に興味を持った。

また、前高に入学してからの生活は、自分が思い描いていた輝かしいものとはかけ離れていた。初めのうちは勉強に部活に充実した生活が送れていたが、次第に学校生活に慣れてしまい、物事に対するモチベーションが下がり始めた。そんな学校生活を変えるきっかけにしたいと思ったことも、この研修への参加理由の一つだ。

ここからは特に印象に残ったことを綴っていく。

●外国人との会話（準備した話のネタを生かす）

まず、この研修は8日間と、短い。しかし、事前研修は何度もあり、「行くまでの準備が大切。」と毎回のように言われた。その準備とは、具体的には話のネタをたくさん用意しておくことが中心だった。報告書にも「もっとたくさん話題を用意すれば良かった。」と書いている先輩もいたため、サッカーや将棋、総合的な学習の時間で取り組んでいることなど、様々なジャンルのネタを用意した。

現地では、オックスフォード大学の学生3人がRA (Resident Assistant : アシスタント) としてわたしたちにはほぼ毎日ついてくれた。準備したネタを生かすチャンスだと思っはいるが、なかなか話しかける勇気がでない。はじめのうちは向こうから話しかけてくれたが話が續かない。しかし、思い切って自分から話しかけると、気持ちに若干の余裕ができ、準備したネタを生かすことができた。

また、オックスフォード大学には世界各国から様々な人たちが来ている。そのため、私たちが主に過ごした、ハートフォードカレッジでは外国人と話すチャンスが何度もあった。特に食堂にはたくさん人がいるため、準備したネタを生かすいい機会だ。ただ、RAとは違い、断られたりもする。何度か外国人と話すことはでき、そのうちの一人はバングラデシュ人だった。国が違えば考え方も文化も違い、貴重な経験となった。他の国からの人たちには、将棋について軽く説明することもできた。



●現地で活躍する日本人から前高生へのメッセージ

<紅林秀和さん>

ロンドン大学で研究をしている紅林さんからは、留学とグローバル人材についての話を聞いた。彼の話で強く感じた言葉がある。「俺のこれ、世界レベル。」つまりは、「何かひとつ優れた特徴をもて」ということだ。グローバル社会になりつつある世の中で、特徴を持っていることはとても強みになる。興味ある分野をとことん追求していきたい。

<岡本尚也さん>

岡本さんの話では、自分の常識を打ち砕かれる内容のものばかりで、どの話も印象的だった。「目標は高く、リアリティをもつものに」。岡本さんの言ったこの言葉は、今の自分に適当であり、実行しなければならないものだ。一見よくありそうな言葉だが、この特別な環境にいたからこそ強く心に残ったのかも知れない。

●自ら行動を起こす

この8日間で、チャレンジすることがいかに大切かを強く感じた。当たり前のことだが、自ら行動を起こさないと何も始まらない。そして成長はない。逆に考えると、自ら行動すれば必ず何か起きる。「失敗は成功の元」ということわざのように、たとえ失敗しても得るものは少なからずある。だから、どんなときもチャレンジ精神を大切にしていきたい。

強引かも知れないが、この報告書を読んで、Oxbridge 研修に少しでも興味を持ったのなら是非チャレンジすることを勧める。

●世界とつながる

また、紅林さんや岡本さん、RAの3人などとメールアドレスを交換し、彼らとこれからも続く関係をつくることができた。これはこの研修に参加したからこそ得られたものだと思う。これから先、文化等の異なる人の意見を聞いたり、海外の最新の情報を得たりすることができるのは自分にとってプラスになる。



この Oxbridge 研修に参加できたことは、これからの人生を歩む上で貴重な経験となった。また、自分を見つめ直し、自分の将来像（可能性）をいくつも考えることができた。

最後に、ISAの松井さん、加藤先生を始め、この研修を支えてくださったすべての方々に感謝したい。貴重な経験をありがとうございました。